

2014年度に国際協力プログラムが開講する「FLP演習A（2年次）」の 担当予定者とその講義概要

2014年度に開講する「FLP演習A」の担当予定者とその講義概要は、「プログラム」を選択する際、参考にしていただくために作成しました。そのため、現時点の「FLP演習A」の担当予定者であり、エントリーシートの提出後、演習担当予定者の変更があり得ることをお含みおきください。

*経済開発（担当：牛嶋 仁・法学部）

テーマ：「国境を越える環境法と国際協力・地域の諸問題」

演習概要：

本演習は、環境、地域・公共各プログラムと合併して行います（ゼミに各プログラム所属学生がいるしくみ）。環境問題や国境を越える環境法を結節点として、国際協力、地域公共の視点も併せ持つ多様性のあるゼミにしたいと考えています。

近年、多国間条約による環境規制の増加やトランスナショナル環境規制（グローバリゼーションにより特定国の環境規制が国境を越えて法的または事実上の影響を及ぼすこと）により、私たちの市民生活や企業活動が影響を受けるようになりました。自由貿易協定や経済連携協定によっても各国・地域の環境保全に影響が生じる可能性があります。それら現象について国際協力・地域の視点から実地調査を含む検討を行います。

対象テーマは、上記に関連するものについて、担当教員と相談した上で、受講者が決定します。授業は、受講者の報告と討論により行います。

方法として、受講者による文献調査報告と実態調査の二つの柱があります（いずれも報告集作成）。

報告について、演習Aでは、基礎力をつけるため、広く環境問題を対象とします。演習Bでは、受講者が決定した全体テーマの検討を行います。全体テーマの例として、政府開発援助における環境アセスメント、電気製品に含まれる有害物質規制、生物多様性条約名古屋議定書によるABS（遺伝資源へのアクセスと利益配分）、自由貿易協定、経済連携協定が地域の環境に与える影響などがあげられます。演習Cでは、受講生ごと（またはグループ）の個別テーマを設定します。

実態調査について、演習Aでは、海外調査（2014年9月〔タイ〕予定。演習B、法学部環境法ゼミと合同。タマサート大学との交流を含む）を行うべく準備を進めています。演習B、Cについても、海外（Asia-Pacific 諸国）での大学交流・調査を考えていますが、詳細は、受講生と相談して決定します。

*国際ビジネスとコミュニケーション（担当：中迫 俊逸・商学部）

テーマ：異文化コミュニケーションの理論研究とビジネス英語のトレーニング

演習概要：

コミュニケーションの理論研究においては、外国と日本の文化に対して理解を深められるよう、文献を通じての講義や受講生による英語と日本語による個人発表（パワーポイントを使用したもの）を行ってまいります。

ビジネス英語のトレーニングでは、以下の2点を行います。

- (1) ほぼ毎回の講義で音声テープとほぼ同時に話させ、平常点をつけます。
- (2) アウトラインモードを使用した文章の書き方を指導します。

なお、商学部2年次開講科目である課題演習と合併で講義を行い、商学部ゼミと合同でマレーシアに実態調査に行きます。その際、訪問先の文化を学習すると共に、パワーポイントを使用して日本文化を英語で紹介してまいります。

*国際ビジネスとコミュニケーション（担当：武石 智香子・商学部）

テーマ：日本文化について、比較文化的なプレゼンを英語で行う

演習概要：

秋の海外合宿にて英語プレゼンを行う。

予定では、ボストンにある大学を訪れ、ブランダイス大学で英語プレゼンを行う計画である。ハーバード大学およびボストン大学で討論クラスに参加する準備も行う。

*国際ビジネスとコミュニケーション（担当：平澤 敦・商学部）

テーマ：

わが国の企業の海外進出時の課題および事業特性について

演習概要：

日本の企業が海外に進出する際に留意すべき点や、事業展開をする上でのターゲット戦略等につき研究する。なお、業種については履修者と相談の上決定する。

研究のプロセスは、問題意識 → 業種確定 → 研究意義 → 研究手法 → 目標設定 をし、グループ研究を行う。

なお、履修が確定した段階で資料収集の秘訣を履修者全員に伝えます。

参考までに、東証一部の業種欄を見ておいてください。

*社会開発（担当：新原 道信・文学部）

テーマ：3. 11以降の“惑星社会の諸問題を引き受け／応答する”ことをテーマとして、国際フィールドワークの「エピステモロジー／メソドロロジー」を身につけます。粘り強くフィールドワークの理解と実践をしていくことで洞察力を獲得し、その洞察力によって新たな事実を発見し問題解決の方向を示唆する“社会のオペレーター”へと成長することを目標とします。

演習概要：

たったひとりで“異郷／異教／異境”の地に降り立つ力（“異境の力”）を各自が身につけることが最大の課題です。①そのため演習Aでは、フィールドワークの「技法・作法と倫理」と「理論と方法」を徹底して学び、ゼミ生のグループワークによりフィールドワークの計画を立案し、実際のフィールドでの体験のなかから「エピステモロジー／メソドロロジー」を身につけます（learning in the field）。②後期以降は、「フィールドのなかで書くこと（writing in the field, writing while committed）」のトレーニングで獲得した知見のとりまとめ（質的コーディング）と、新原ゼミ生共通のプロジェクトへの参加準備、3・4年次の学年ごとのプロジェクトや個人プロジェクトの立案の準備をすすめます。

*社会開発（担当：崎坂 香屋子・全学連携教育機構）

テーマ：保健・教育・環境分野のポスト MDGs の課題の検討と検証

演習概要：

2000年に世界の大多数の国が参画して世界全体での開発目標と具体的到達目標値を定めたミレニアム開発目標（MDGs）（1990年から2015年を対象）も最終年が近づいてきた。達成された目標、達成されなかった目標、また欠点、についても検証が行われている。2015年以降のポスト MDGs に関する議論もまとまりつつある。その過程と国際協力の有り方、現場やシステムはどのようになっているかを文献とフィールド調査で学んでいく。文献調査と大学内外での知識の獲得、を主目標とする。将来国際協力の分野での就職や活動を希望する方向けのゼミです。

*経済開発（担当：野末 裕史・全学連携教育機構）

テーマ：経済開発（特に東アジアの経済開発）

演習概要：

- ・ 本演習では東アジアの経済開発について、歴史的見地を踏まえて学際的に研究する。本年度は、東アジアの中で特定の国・地域を取り上げ、近代史・開発経済学などの学習に加えて、金融資本市場の整備・投資家情報のディスクロージャー・非在来金融やマイクロファイナンスなどを検討する。
- ・ 一般的な演習と同様に、各発表担当者は、文献やデータをよく調べレジュメを作成した上で、発表をおこなう。引き続き質疑応答と議論をおこなう。
- ・ 個人研究・発表に加えて、少人数グループでの共同研究・発表をすることもある。
- ・ 初心者に対しては、発表や議論の方法などについて詳しく説明をする。
- ・ 理論的枠組みや重要な学説については、授業内で講義の時間帯を設けて、随時紹介する。
- ・ 合宿等を計画する場合もある。
- ・

- In this course, we will be studying economic development of East Asia with an interdisciplinary approach, which is supplemented by an historical perspective. For the current academic year, we will choose certain area(s) within East Asia as the subject. In addition to studying modern history and development economics, matters such as the development of financial and capital markets, disclosure of investor information, nonconventional finance, and micro finance will be considered.

- Each seminar session will take place in a way that is similar to many others. Namely, each designated presenter will give his or her presentation after preparing a summary (called "resume") upon reading assigned and other materials, while also referring to materials containing numbers and figures. A question & answer (Q&A) session and discussions will follow.

- In addition to individual efforts, small groups may be formed to conduct collective research/presentation activities.

- For the benefit of novices, detailed instructions will be given on the subject of how to prepare and give academic presentations, as well as how to conduct discussions in an appropriate manner.

- Lectures will be given from time to time within the seminar sessions, to explain theoretical framework and important academic views and opinions.

- Off-site sessions (study tours and/or camps) may be hosted.